

授 業 計 画

平成 25 年度

Syllabus 2013

生涯福祉学部 こども福祉学科

生涯福祉学部

こども福祉学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

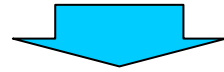
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

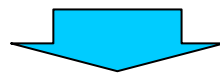


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

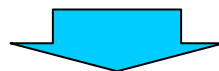


生涯福祉学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



こども福祉学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

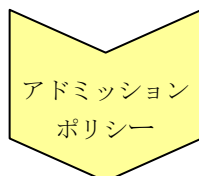
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

生涯福祉学部ポリシー

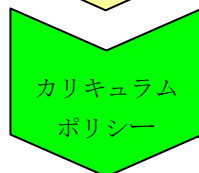
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・生涯福祉学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲と学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し、向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・生涯福祉学部では、「和」の精神に基づく教養を広く基礎として、人と人の生涯発達について理解するとともに、主に小都市・町村での学びを通して、生涯発達に応じ人を支援する地域社会に貢献できる「幅広い職業人」の育成を目指してカリキュラムを編成します。</p>	<p>・生涯福祉学部では、人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係性を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



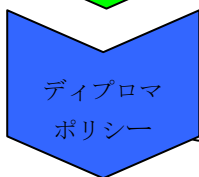
3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

こども福祉学科ポリシー

こども福祉学科は、「和」の精神を尊び、こどもの権利保障とこどもの育ちを支援し、地域における福祉社会を担い、こどもの健全育成に貢献する確かな実力を有する人材の育成を目指します。

アドミッション ポリシー

・生涯福祉学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 幼児教育・保育に関する専門職に関心を持ち、自ら学ぶ意欲のある人
2. 地域のこどもの生活に関心を持ち、子育て支援について専門的に学ぶ意欲のある人
3. 生涯にわたり地域や社会に貢献する意欲のある人

カリキュラム ポリシー

・こども福祉学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、こどもの福祉に関する専門的知識と技術を身につけるために、調べ、考え、議論をするという学習態度を身につける
2. こどもの発達の諸相を社会や文化など様々な視点から捉える事が出来るようになるために、広範な学問分野の知識や技能を身につける
3. こどもの個性を的確に理解したうえで、こどもを発達へと導いていく力身につけるために、専門的知識や技術を身につける
4. 子育てに携わるすべての人の気持ちに寄り添いつつ、子育て支援を提供する力を身につけるために、専門的知識や技術を身につける
5. 福祉社会の一員たる市民として、またこども福祉の実践的専門家とし、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける

ディプロマ ポリシー

・こども福祉学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（こども福祉）の学位を授与します。

1. こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力
2. こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力
3. 就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】 人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		こども福祉学科のディプロマポリシー								
		1			2			3		
		こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	
	こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する	
基礎科目	日本語(読解と表現)			◎						○
	英語			◎						○
	コンピュータ演習			◎						○
教養科目	宗教と人生		◎			○				
	生命倫理学		◎							
	哲学		◎							
	文学		◎							
	仏教と現代社会		◎			○			○	
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)		◎			○			○	
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)		◎			○			○	
	色彩とデザイン		◎	○						○
	法と社会		○		◎			○		
	日本国憲法		○		◎	○		○		
	人権の歴史		◎		○	○				
	政治学		○			◎			○	
	社会学					○			◎	
	経済学					◎		○		
	生物学	◎								
	食と健康	◎	○							
	実用英語(初級)			◎						
	実用英語(中級)			◎						
	中国語(初級)			◎						
	中国語(中級)			◎						
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	○	◎								
健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)		○	◎						○	
健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)		○	◎						○	
私のためのキャリア設計		○				◎				
専攻科目	生涯学習論	○		◎						
	生涯発達心理学Ⅰ	◎	○		○					
	社会福祉Ⅰ		◎		○			○		
	社会福祉Ⅱ		◎		○			○		
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ							○		◎
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ							○		◎
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ			◎				○		
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ			◎				○		
	児童家庭福祉		◎		○			○		
	低所得者に対する支援と生活保護制度		◎		○			○		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ		○		◎			○	○	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		○		◎			○	○	
	介護概論		○		○				◎	
	加齢及び障害に関する理解		◎			○				
	障害者福祉論		◎			○				
	権利擁護と成年後見制度		◎					○		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ							◎		○
	福祉行政と福祉計画				◎			○		
	福祉サービスの組織と経営				○			◎		
	社会保障Ⅰ		○					◎		
	社会保障Ⅱ		○					◎		
	国際福祉論		○					◎		
	社会調査の基礎		○					◎		
	社会調査の応用		○							◎
	心理検査法	○		◎						
	精神保健福祉論	○							◎	
	精神医学Ⅰ	◎	○							
精神保健学Ⅰ	◎	○								
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	○	◎					○			
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	○	◎					○			
こども福祉基盤科目	初年次演習Ⅰ		◎						○	
	初年次演習Ⅱ		◎						○	
	こども福祉基礎演習Ⅰ		◎		○					
	こども福祉基礎演習Ⅱ		◎		○			○		
	人間福祉論		◎		○			○		
	保育原理Ⅰ	◎			○			○		
	保育原理Ⅱ		◎		○				○	
	教育原理		○			◎			○	
	こどもの心理学Ⅰ	◎		○			○			
	こどもの心理学Ⅱ	◎		○			○			
	乳児保育Ⅰ	○			◎			○		
	乳児保育Ⅱ		○				○			◎
	障害児保育Ⅰ	◎				○			○	
	障害児保育Ⅱ	◎					○			○
	相談援助			○			◎			○
	家庭支援論				○	◎	○			
	社会的養護	○			○			◎		
社会的養護内容	○			○				◎		

授業科目区分	授業科目の名称	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		こども福祉学科のディプロマポリシー								
		1			2			3		
		こどもが幸福に発達する権利を尊重し、こどもの健やかな発達を促進する力			こどもの発達に関わる豊かな知識と技術に裏打ちされた、実践的な子育てを支援する力			就学前のこどもの健全育成に資する、質の高い集団施設保育を実践する力		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3		
こどもの発達過程について正しく理解する	こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する	こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる	集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する	こどもの成長を願い、他の保育者と連携して集団保育に取り組む	質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		
専門教育科目 専門科目I群	こどもの保健 I A	◎				○		○		
	こどもの保健 I B	◎				○			○	
	こどもの保健 II			○				○		◎
	こどもの食と栄養 I		○			◎		○		
	こどもの食と栄養 II			◎				○		
	こどもと健康			◎		○				○
	こどもと人間関係		○			○		○		◎
	こどもと環境	○		◎						
	こどもと言葉	○		○		○				◎
	こどもと音楽表現			○						◎
	こどもと身体表現		○	○						◎
	こどもと言語表現			○						◎
	こどもと音楽 I			○						◎
	こどもと音楽 II			○						◎
	こどもと造形 I			○						◎
	こどもと造形 II			○						◎
	こどもと造形 III			○						◎
	こどもと運動 I			○						◎
	こどもと運動 II			○						◎
	こどもと数	◎		○						
	こどもと生活	○				◎		○		
こども文化論 I		◎		○			○			
こども文化論 II			○		○				◎	
こどもとメディア		○			◎			○		
国際こども文化論	◎			○			○			
専門教育科目 専門科目II群	こども福祉専門演習 I		◎	○						
	こども福祉専門演習 II		◎	○						
	こども福祉卒業演習 I		◎	○						
	こども福祉卒業演習 II		◎	○						
	教師・保育者論		○			○			◎	
	保育課程総論	◎			○			○		
	保育内容総論		○			○				◎
	保育・教職実践演習(幼稚園)			○			○			◎
	教育心理学	○		◎						
	児童心理学	◎						○		
	青年心理学	◎						○		
	臨床心理学		◎				○	○		
	教育制度論				○			◎		
	教育方法論			○			○			◎
	教育相談		◎				○			
	表現総合演習			○						◎
	造形総合演習			○						◎
	音楽教育			○						◎
	こども音楽療育概論					◎			○	
	こども音楽療育演習			○			○			◎
	こども音楽療育実習			○						◎
	保育相談支援 I					◎	○			
	保育相談支援 II					◎	○			
	集団施設保育の現状と課題							○	◎	○
保育実習 I A		○							◎	
保育実習 I B		○							◎	
保育実習 II		○							◎	
保育実習 III		○							◎	
保育実習指導 I A			○			○	◎			
保育実習指導 I B			○			○	◎			
保育実習指導 II			○			○	◎			
保育実習指導 III			○			○	◎			
教育実習指導			○			○	◎			
教育実習		○							◎	
専門教育科目 発展科目	子育て支援地域活動 I			○			◎			○
	子育て支援地域活動 II			○			◎			○
	児童館の機能と運営			○		○		◎		
	発達障害児への支援			○			◎			○
	児童の貧困と虐待	○				○		◎		
	児童の健全育成と福祉		○			◎			○	
	少子高齢社会とこどもの生活	○				○		◎		
	施設保育士論			○			○	◎		
	男女共同参画社会の構築	○			○					◎
	福祉経営実践演習				○			○		◎
消費者教育			○	○	◎					
こども福祉特論					○			◎		

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1			2				3							
自己を認識し、他者を理解し、思いやる心と志をもって社会で生き抜く力			経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、とむに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力							
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

科目名	担当者氏名	授業方法	単位	選択区分	開講年次
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力			2	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-4 ビジネス 基礎力 ○ 3-1 キャリア 形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用	
《授業の概要》					
《テキスト》					
《参考図書》					
《授業時間外学習》					
《備考》					
《授業計画》					
週	テーマ (全角22文字)	学習内容など			
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

生涯福祉部こども福祉学科

【卒業要件単位数】

■平成 25 (2013) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		10 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	社会福祉基盤科目	14 単位	12 単位	6 科目
	こども福祉基盤科目	20 単位	16 単位	8 科目
	専門科目Ⅰ群	30 単位	6 単位	3 科目
	専門科目Ⅱ群	30 単位	12 単位	6 科目
	発展科目	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		26 単位	—	—
合計		130 単位	56 単位	21 科目

【幼稚園教諭一種免許取得について】

「教育職員免許法」及び「同法施行規則」では、「教科に関する科目」を 6 単位、「教職に関する科目」を 35 単位、「教科又は教職に関する科目」を 10 単位、合計 51 単位の修得が定められています（修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」に充当されます）。

こども福祉学科幼児教育コースにおいて、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次の科目の単位を修得しなければなりません。

幼稚園教諭一種免許	66 条の 6 に定める科目	9 単位以上
	教科に関する科目	22 単位以上
	教科又教職に関する科目	10 単位以上
	教職に関する科目	39 単位

(66 条の 6 に定める科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める 修得単位数
				必修	選択	
66 条の 6 に定める科目	日本国憲法	2	日本国憲法		2	2 単位必修
	体育	2	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)		2	2 単位必修
			健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)		1	いずれか 1 単位必修
			健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)		1	
	外国語コミュニケーション	2	英語	2		2 単位必修
情報機器の操作	2	コンピュータ演習	2		2 単位必修	

※ 必修科目 4 単位のほか、「日本国憲法」[2 単位]、「健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)」[2 単位]、「健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)」[1 単位]又は「健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)」[1 単位]、合計 9 単位以上修得しなければならない。

(教科に関する科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める 修得単位数
				必修	選択	
教科に関する科目	国語	6	日本語(読解と表現)	2		必修科目 22 単位
	算数		こどもと数	2		
	生活		こどもと生活	2		
	音楽		こどもと音楽Ⅰ	2		
			こどもと音楽Ⅱ	2		
			こどもと音楽Ⅲ	2		
			こどもと音楽Ⅳ		●2	
	図画工作		こどもと造形Ⅰ	2		
			こどもと造形Ⅱ	2		
			こどもと造形Ⅲ	2		
			こどもと造形Ⅳ		●2	
	体育		こどもと運動Ⅰ	2		
こどもと運動Ⅱ		2				

(教科又は教職に関する科目)

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得 単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名	開設単位数		本学が 定める 修得単位数
			必修	選択	
教科又は教職に関する科目	10	こどもの心理学Ⅰ	2		必修科目 8単位 (※1)
		こどもの心理学Ⅱ		●1	
		こども文化論Ⅰ		●2	
		こども文化論Ⅱ		●1	
		青年心理学		●2	
		表現総合演習		●1	
		造形総合演習		●1	
		音楽教育	2		
		発達障害児への支援		●2	
		幼児のための福祉教育Ⅰ	2		
		幼児のための福祉教育Ⅱ	2		

(※1)「教科又は教職に関する科目」の選択科目又は「教科に関する科目」の選択科目から、4単位以上修得しなければならない。(「教科又は教職に関する科目」又は「教科に関する科目」の●印の単位から4単位以上修得しなければならない。)

(教職に関する科目)

区分	免許法施行規則に定める科目区分等	最低修得 単位数	こども福祉学科 幼児教育コースで 開設している授業科目名		開設単位数		本学が 定める 修得 単位数
			必修	選択	必修	選択	
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教師・保育者論	2		39 単 位 必 修
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理	2		
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学	2		
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論	2		
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	保育課程総論	2		
		・保育内容の指導法		保育内容総論	2		
				こどもと健康	2		
				こどもと人間関係	2		
				こどもと環境	2		
				こどもと言葉	2		
				こどもと音楽表現	2		
				こどもと身体表現	2		
こどもと言語表現				2			
教育方法論	2						
生徒指導教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	幼児理解	2			
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2			
教育実習		5	教育実習指導	1			
			教育実習	4			
教職実践演習		2	保育・教職実践演習（幼稚園）	2			

【保育士資格取得について】

こども福祉学科において、保育士資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、「児童福祉法施行規則」に定められている次の科目の単位を修得しなければなりません。

保育士資格	教養科目	8 単位以上
	必修科目	63 単位
	選択必修科目	9 単位以上

(教養科目)

系列	児童福祉法施行規則告示による教科目		指定 単位数	こども福祉で 開設している授業科目名		開設単位数		本学が 定める 修得単位数
	教科目	授業 形態		選択 必修	授業科目	授業 形態	必修	
教養科目	外国語、体育以外の 科目	不問	6 単 位 以 上 開 設	日本語（読解と表現）	演習	2		8 単 位 以 上 必 修
				コンピュータ演習	演習	2		
				宗教と人生	講義	2		
				生命倫理学	講義		2	
				哲学	講義		2	
				文学	講義		2	
				仏教と現代社会	講義		2	
				国際理解と宗教Ⅰ （キリスト教）	講義		2	
				国際理解と宗教Ⅱ （イスラム教）	講義		2	
				色彩とデザイン	講義		2	
				法と社会	講義		2	
				日本国憲法	講義		2	
				人権の歴史	講義		2	
				政治学	講義		2	
				社会学	講義		2	
				経済学	講義		2	
	生物学	講義		2				
	食と健康	講義		2				
	私のための キャリア設計	講義		2				
	外国語	演習	2 単位 以上	英語	演習	2		
実用英語（初級）				演習		2		
実用英語（中級）				演習		2		
中国語（初級）				演習		2		
中国語（中級）				演習		2		
体育	講義	1	健康・スポーツ科学Ⅰ （講義）	講義		△2	2 単位必修	
	実技	1	健康・スポーツ科学Ⅱ （実技）	実技		△1	いずれか 1 単位必修	
			健康・スポーツ科学Ⅲ （実技）	実技		△1		
合 計（開設単位数）			10 単位 以上	合 計		52 単位	11 単位 以上	

※ 必修科目 8 単位のほか、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」[2 単位]、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」[1 単位] 又は「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」[1 単位] から、合計 11 単位以上修得しなければならない。

(必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示別表第1による教科目		指定 単位数	こども福祉学科で 開設している授業科目名		開設単位数		本学が 定める 修得 単位数
	教科目	授業 形態	必修	授業科目	授業 形態	必修	選択	
保育の本 質・目的 に関する 科目	保育原理	講義	2	保育原理 I	講義	2		63 単 位 必 修
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		
	社会福祉	講義	2	社会福祉 I	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		△1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		△2	
保育の対 象の理解 に関する 科目	保育の心理学 I	講義	2	こどもの心理学 I	講義	2		
	保育の心理学 II	演習	1	こどもの心理学 II	演習		△1	
	子どもの保健 I	講義	4	こどもの保健 I A	講義		△2	
				こどもの保健 I B	講義		△2	
	子どもの保健 II	演習	1	こどもの保健 II	演習		△1	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養 I	演習		△1	
				こどもの食と栄養 II	演習		△1	
家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		△2		
保育の内 容・方法 に関する 科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習		△2	
	保育内容演習	演習	5	こどもと健康	演習		△2	
				こどもと人間関係	演習		△2	
				こどもと環境	演習		△2	
				こどもと言葉	演習		△2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育 I	演習		△1	
				乳児保育 II	演習		△1	
	障害児保育	演習	2	障害児保育 I	演習		△1	
障害児保育 II				演習		△1		
社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		△1		
保育相談支援	演習	1	保育相談支援 I	演習		△1		
保育の表 現技術	保育の表現技術	演習	4	こどもと音楽表現	演習		△2	
				こどもと身体表現	演習		△2	
				こどもと言語表現	演習		△2	
				こどもと音楽 I	演習	2		
				こどもと造形 I	演習	2		
				こどもと運動 I	演習	2		
保育実習	保育実習 I	実習	4	保育実習 I A	実習		△2	
				保育実習 I B	実習		△2	
	保育実習指導 I	演習	2	保育実習指導 I A	演習		△1	
				保育実習指導 I B	演習		△1	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		△2	
合 計			51	合 計		63		

※ 必修科目 20 単位、選択科目 43 単位 (△がある科目すべて)、合計 63 単位修得しなければならない。

(選択必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示別表第2による教科目		指定単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業形態	選択必修	授業科目	授業形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目			15単位以上開設	保育原理Ⅱ	講義		2	6単位以上必修
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学	講義		2	
				幼児理解	講義		2	
				青年心理学	講義		2	
				臨床心理学	講義		2	
				教育相談	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目								
保育の表現技術	保育の表現技術	演習		こどもと音楽Ⅱ	演習		2	
				こどもと造形Ⅱ	演習		2	
				こどもと造形Ⅲ	演習		2	
			こどもと運動Ⅱ	演習		2		
			音楽教育	演習		2		
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		▲2	いずれか2単位必修
				保育実習Ⅲ	実習		▲2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		▲1	いずれか1単位必修
				保育実習指導Ⅲ	演習		▲1	
合計（開設単位数）			18単位以上	合計		22単位		9単位以上

※ 「保育実習Ⅱ」〔2単位〕と「保育実習指導Ⅱ」〔1単位〕又は、「保育実習Ⅲ」〔2単位〕と「保育実習指導Ⅲ」〔1単位〕の3単位を修得するとともに、それ以外の選択必修科目から6単位以上、合計9単位以上修得しなければならない。

【こども音楽療育士について】

こども福祉学科において、こども音楽療育士の資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次に示す必修科目及び選択科目を合わせて20単位以上の単位を修得しなければなりません。

こども音楽療育士	必修科目	4単位
	選択科目	16単位以上

区分	履修すべき科目		単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名		開設単位数		本学が定める修得単位数
	教科目	授業形態		授業科目	授業形態	必修	選択	
必修科目	こども音楽療育概論	講義	2	こども音楽療育概論	講義		☆2	2単位
	こども音楽療育演習	演習	1	こども音楽療育演習	演習		☆1	1単位
	こども音楽療育演習	実習	1	こども音楽療育演習	実習		☆1	1単位
選択科目	I群 「障害児及び心理」関連分野	4単位以上	障害者福祉論	講義			★2	I群から4単位以上、II群から2単位以上、III群から4単位以上、計16単位以上
			心理検査法	講義			★2	
			こどもの心理学I	講義	2			
			こどもの心理学II	演習			★1	
			障害児保育I	演習			★1	
			障害児保育II	演習			★1	
			発達障害児への支援	演習			★2	
			教育心理学	講義			★2	
			幼児理解	講義			★2	
			青年心理学	講義			★2	
	臨床心理学	講義			★2			
	II群 「保健」関連分野	2単位以上	こどもの保健I A	講義			★2	
			こどもの保健I B	講義			★2	
			こどもの保健II	演習			★1	
	III群 「音楽」関連分野	2単位以上	こどもと音楽表現	演習			★2	
こどもと音楽I			演習	2				
こどもと音楽II			演習			★2		
音楽教育			演習			★2		
合計						36単位		20単位以上

※ 必修科目4単位、選択科目4単位（☆がある科目すべて）を修得し、かつ、I群から4単位以上、II群から2単位以上、III群から4単位以上、計16単位修得しなければならない。

【児童厚生一級指導員について】

こども福祉学科において、児童厚生一級指導員の資格を取得するためには、こども福祉学科の卒業に必要な科目の他に、次に示す必修科目及び選択科目を合わせて 20 単位以上の単位を修得しなければなりません。さらに、保育士資格取得見込であることが必要となります。

児童厚生一級指導員	資格指定科目	41単位以上
	ただし、児童館実習（20日間）を修得の場合	34単位以上

資格指定科目	単位数	こども福祉学科で開設している授業科目名	開設単位数		本学が定める修得単位数
			必修	選択	
児童の健全育成と福祉	2	児童の健全育成と福祉		<input type="checkbox"/> 2	2 単位
児童館の機能と運営 (児童クラブを含む)	2	児童館の機能と運営		<input type="checkbox"/> 2	2 単位
児童館の活動内容と指導法 (児童クラブを含む) 文化・表現活動、 運動・野外活動、 子育て支援、等	4	保育内容総論		<input type="checkbox"/> 2	5 単位以上 必修
		こどもと健康		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと人間関係		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと環境		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと言葉		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
	4	こどもと音楽表現		<input checked="" type="checkbox"/> 2	4 単位以上 必修
		こどもと身体表現		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと言語表現		<input checked="" type="checkbox"/> 2	
		こどもと音楽 I	2		
		こどもと造形 I	2		
	4	こどもと運動 I	2		7 単位
		社会的養護		<input type="checkbox"/> 2	
		障害児保育 I		<input type="checkbox"/> 1	
		障害児保育 II		<input type="checkbox"/> 1	
		保育相談支援 I		<input type="checkbox"/> 1	
児童福祉援助技術	2	相談援助		<input type="checkbox"/> 1	3 単位
		家庭支援論		<input type="checkbox"/> 2	
地域福祉 I 地域福祉論 II コミュニティワーク演習	4 (2)	地域福祉の理論と方法 I		<input type="checkbox"/> 2	4 単位
	(2)	子育て支援地域活動 II		<input type="checkbox"/> 2	
児童館実習 (児童クラブを含み 20 日間)	4	保育実習 I A		<input type="checkbox"/> 2	11 単位 又は 児童館実習 (20 日間) 4 単位 (*)
		保育実習 I B		<input type="checkbox"/> 2	
		保育実習指導 I A		<input type="checkbox"/> 1	
		保育実習指導 I B		<input type="checkbox"/> 1	
		保育実習 III		<input type="checkbox"/> 2	
		保育実習指導 III		<input type="checkbox"/> 1	
		児童館実習 (10 日間) (*)		<input type="checkbox"/> 2	
合計	18	合計	51 単位	41 単位以上 (34 単位以上)	

※ (*) の「児童館実習 (10日間)」及び「児童館実習 (20日間)」については、資格関連科目のため、単位を修得しても卒業要件単位には含まれない。

平成 25（2013）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業区 科目区分	授業科目の名称	授業方法	学科		幼児教育コース					児童福祉コース					学年配当（数字は週当り授業時間）								平成25年度の 担当者	ページ				
			単位数		単位数		幼 一 種	保 育 士	療 育 士	こ ど も 音 楽	児 童 厚 生 一 級	単位数		単位数		保 育 士	こ ど も 音 楽	児 童 厚 生 一 級	1年		2年				3年		4年	
			必修	選択	必修	選択						必修	選択	必修	選択				必修	選択	必修	選択			必修	選択	必修	選択
																				I	II	I			II	I	II	I
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2		2		◇	●				2		●				2								安井 重雄	21	
	英語	演習	2		2		◇	○				2		○				2								(平本 幸治)	22	
	コンピュータ演習	演習	2		2		◇	●				2		●				2								(西田 悦雄)	23	
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2		2			●				2		●					2							(本多 彩)	24	
	生命倫理学	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②	[浅沼 光樹]	25	
	哲学	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②	[三浦 摩美]	26	
	文学	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		安井 重雄	27	
	仏教と現代社会	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②	(本多 彩)	28	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		[塚本 潤一]	29	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②	[重親 知左子]	30	
	色彩とデザイン	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		[浜島 成嘉]・(稲富 恭)	31	
	法と社会	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②	[國友 順市]	32	
	日本国憲法	講義		2		2		◇	●			2		●				②		②		②		②		[笹田 哲男]	33	
	人権の歴史	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		[西脇 修]	34	
	政治学	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		斎藤 正寿	35	
	社会学	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		(吉原 恵子)	36	
	経済学	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②		(石原 敬子)	37	
	生物学	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②		[石井 禎基]	38
	食と健康	講義		2		2		●				2		●					②		②		②		②		(亀谷 小枝)	39
	実用英語（初級）	演習		2		2		●				2		●					②		②		②		②		[加藤 恭子]	40
	実用英語（中級）	演習		2		2		●				2		●						②		②		②				
	中国語（初級）	演習		2		2		●				2		●				②		②		②		②			[佟 曉寧]	41
	中国語（中級）	演習		2		2		●				2		●					②		②		②		②		[佟 曉寧]	42
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2		2		◇	○			2		○					②		②		②		②		(三宅 一郎)	43	
健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	実技		1		1		◆	○			1		○					②		②		②		②		(三宅 一郎)	44	
健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	実技		1		1		◆	○			1		○					②		②		②		②		(三宅 一郎)	45	
私のためのキャリア設計	講義		2		2		●				2		●				②		②		②		②			[森本 次郎]	46	

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、配当学年の指定はなく、1～4年のいずれの学年でも登録、履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現を身につける。それによって、コミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テスト(30%)と定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、国語辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	音読み・訓読みにおける、同じ発音の漢字の熟語を書き分ける。
3	四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスマス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際して、その利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え、活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配布します。

《参考図書》

小柳・小野・平井・宮本編著(教師を目指す人のための)「教育方法・技術論」学芸図書、2012 など。
必要に応じて授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから、配付資料を熟読し理解を深めて下さい。
課題作成は授業時間内を基本としていますが、不足分は時間外学習で対応してください。

《備考》

“ 便利な文房具や道具として ” のコンピュータの積極的な利用を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windows, 電磁メール	Windowsのパスワード変更, 電子メールの概要と活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法, 検索サイト, 情報化の光と影
4	文書作成(1)	ワードプロセッサソフトの基本知識・操作
5	文書作成(2)	Webブラウザとの連携(検索エンジンを利用した情報検索/収集)
6	文書作成(3)	Webブラウザとの連携, 情報の引用, 参照のつけ方, 文書作成
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの基本知識, セル, 罫線, 表組の活用, 基本的な関数の活用
8	表計算ソフト(2)	グラフ描画方法, 有効なグラフの形状
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基本知識, 発表テーマの設定と作成
10	プレゼンテーションソフト(2)	アニメーションとデザインの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表, レポート, 課題作成のための実践...テーマ設定
12	総合的な演習(2)	レポート, 課題作成のための実践...表計算ソフトとワープロソフトの連携
13	総合的な演習(3)	レポート, 課題作成のための実践...表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携
14	総合的な演習(4)	レポート, 課題作成のための実践...見栄えする資料作成のコツ
15	総合的な演習(5)	まとめ...総合的な演習とその他補足

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
小テスト・レポート 約20%
定期テスト 約50%
この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要 など

《備考》

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちが医療技術の進歩に合わせて考え方を考えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
(内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。併せて個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	実在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点(30%)、及び、定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 ・土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

科目名	国際理解と宗教（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えてこない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態を続けるのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク(イスラームの礼拝所)も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/ レザー・アスラン『変わるイスラーム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ(例：モスクの見学)。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、欠席となる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラースステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによってに配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。(担当:稲富)
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。(担当:稲富)
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「こどもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「こどもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「こどもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
 差別を見抜く力を身につけましょう。
 人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
 人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
 これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡
 これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。(2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理(病理)を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分かった社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜き理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007,有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と..民社会	個人と社会、..由と連帯、..民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)： 栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)： 栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)： 栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食 事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体 調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)： 家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)： 環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活 (1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活 (2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活 (3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

妻鳥千鶴子（他）著、First Time Trainer for the TOEIC TEST
(Cengage Learning)

《参考図書》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の 演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1~UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語 』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、 朝日出版社、 2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力測定（事前）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（基礎技能）
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（基礎技能）
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（基礎技能）
6	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（応用技能）
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（応用技能）
8	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（応用技能）
9	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（試合形式）
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（試合形式）
11	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（試合形式）
12	屋内種目（体育館）	バレーボール・バドミントン（ゲーム）
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ペタンク（ゲーム）
14	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・サッカー（ゲーム）
15	体力測定（事後）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力測定（事前）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（基礎技能）
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（基礎技能）
5	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（基礎技能）
6	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（応用技能）
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（応用技能）
8	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（応用技能）
9	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（試合形式）
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（試合形式）
11	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（試合形式）
12	屋内種目（体育館）	バスケットボール・インディアカ（ゲーム）
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	ターゲットパードゴルフ・卓球（ゲーム）
14	屋外種目（グラウンド）	ジョギング・ソフトボール（ゲーム）
15	体力測定（事後）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

児童厚生一級	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	学 科		幼 児 教 育 コー ス					児 童 福 祉 コー ス				学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペー ジ					
			単 位 数		単 位 数	幼 一 種	保 育 士	こ ども 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単 位 数		保 育 士	こ ども 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1 年		2 年		3 年		4 年							
			必 修	選 択						必 修	選 択				必 修	選 択	I	II	I	II	I			II	I	II		
社 会 福 祉 教 育 基 盤 目 録	生涯学習論	講義		2	2						2															(吉原 恵子)	53	
	生涯発達心理学 I	講義		2	2						2															(森田 義宏)	54	
	社会福祉 I	講義	2		2						2																田中 博一	55
	社会福祉 II	講義	2		2						2																田中 博一	56
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	講義	2		2						2					2												
	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	講義	2		2						2						2											
	ソーシャルワークの理論と実践 I	講義	4		4						4						4											
	ソーシャルワークの理論と実践 II	講義	4		4						4						4											
	児童家庭福祉	講義	2		2						2					2											柚山 貴要江	57
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2		2						2						2											
	高齢者に対する支援と介護保険制度 I	講義	2		2						2							2										
	高齢者に対する支援と介護保険制度 II	講義	2		2						2								2									
	介護概論	講義	2		2						2						2											
	加齢及び障害に関する理解	講義	2		2						2								2									
	障害者福祉論	講義	2		2						2								2									
	権利擁護と成年後見制度	講義	2		2						2								2									
	地域福祉の理論と方法 I	講義	2		2						2								2									
	福祉行政と福祉計画	講義	2		2						2									2								
	福祉サービスの組織と経営	講義	2		2						2									2								
	社会保障論 I	講義	2		2						2								2									
	社会保障論 II	講義	2		2						2									2								
	国際福祉論	講義	2		2						2															2		
	社会調査の基礎	講義	2		2						2						2											
	社会調査の応用	講義	2		2						2							2										
	心理検査法	講義	2		2						2								2									
	精神保健福祉論	講義	2		2						2							2										
	精神医学 I	講義	2		2						2						2											
	精神保健学 I	講義	2		2						2								2									
精神保健福祉援助技術各論 I	講義	2		2						2								2										
精神保健福祉援助技術各論 II	講義	2		2						2									2									

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年 I 期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	学 科		幼 児 教 育 コ ー ス					児 童 福 祉 コ ー ス					学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 5 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			単 位 数		幼 一 種	保 育 士	こ だ も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	単 位 数		保 育 士	こ だ も 音 楽 療 育 士	児 童 厚 生 一 級	1 年		2 年		3 年		4 年				
			必 修	選 択					必 修	選 択				必 修	選 択	I	II	I	II	I	II	I		
専 門 教 育 科 目	初年次演習Ⅰ	演習	2	2					2				2							※1 (欄外参照)	58			
	初年次演習Ⅱ	演習	2	2					2					2						※1 (欄外参照)	59			
	こども福祉基礎演習Ⅰ	演習	2	2					2						2									
	こども福祉基礎演習Ⅱ	演習	2	2					2							2								
	人間福祉論	講義	2	2					2					2						田中 博一	60			
	保育原理Ⅰ	講義	2	2		○			2	○			2							澤田 真弓	61			
	保育原理Ⅱ	講義		2	2	●			2	●				2						澤田 真弓	62			
	教育原理	講義	2	2	◇	○			2	○			2							(廣岡 義之)	63			
	こどもの心理学Ⅰ	講義	2	2	◇	○	★1		2	○	★1			2						松田 信樹	64			
	こどもの心理学Ⅱ	演習	1	1	◆	○	★1		1	○	★1				2						※			
	乳児保育Ⅰ	演習	1	1		○			1	○					2						※			
	乳児保育Ⅱ	演習	1	1		○			1	○						2					※			
	障害児保育Ⅰ	演習	1	1		○	★1	□	1	○	★1	□				2					※			
	障害児保育Ⅱ	演習	1	1		○	★1	□	1	○	★1	□					2				※			
	相談援助	演習	1	1		○		□	1	○		□				2					※			
	家庭支援論	講義	2	2		○		□	2	○		□					2							
社会的養護	講義	2	2		○		□	2	○		□					2								
社会的養護内容	演習	1	1		○			1	○						2					※				

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年I期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

※1 柚山、田中正、安井、田中博、斎藤、藤井、中島、松田、澤田、満田

カリキュラム年次配当表

こども福祉学科 平成25年度（2013年度）入学生対象

()は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	学科		幼児教育コース					児童福祉コース				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成25年度の担当者	ページ					
			単位数		幼一	保士	療育士	こども音楽	児童厚生一級	単位数		保士	療育士	こども音楽	児童厚生一級	1年		2年		3年				4年				
			必修	選択						必修	選択					必修	選択	I	II	I	II			I	II	I	II	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修			選択				
専門教育科目 発展科目	子育て支援地域活動Ⅰ	講義	2	2						2																		
	子育て支援地域活動Ⅱ	演習	2	2					□	2																		
	児童館の機能と運営	講義	2	2					□	2																		
	発達障害児への支援	演習	2	2	◆			★1		2																		
	児童の貧困と虐待	講義	2	2						2																		
	児童の健全育成と福祉	講義	2	2					□	2																		
	少子高齢社会とこどもの生活	講義	2	2						2																		
	施設保育士論	講義	2	2						2																		
	男女共同参画社会の構築	講義	2	2						2																		
	福祉経営実践演習	演習	2	2						2																		
	消費者教育	講義	2	2						2																		
	幼児のための福祉教育Ⅰ	講義	2	2	◇					2																		
	幼児のための福祉教育Ⅱ	演習	2	2	◇					2																		
	こども福祉特論	講義	2	2						2																		

〔課程外科目〕

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	学科		幼児教育コース					児童福祉コース				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成25年度の担当者	ページ				
			単位数		幼一	保士	療育士	こども音楽	児童厚生一級	単位数		保士	療育士	こども音楽	児童厚生一級	1年		2年		3年				4年			
			必修	選択						必修	選択					必修	選択	I	II	I	II			I	II	I	II
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修			選択			
資格関連	児童館実習（10日間）	実習	2	2					□1	2			□1														
	児童館実習（20日間）	実習	4	4					□2	4			□2														

◇は幼稚園教諭一種免許必修科目、◆は幼稚園教諭一種免許選択科目

○は保育士資格必修科目、●は保育士選択科目

☆はこども音楽療育士必修科目、★はこども音楽療育士選択科目

選択科目のうち、★1の授業科目から4単位以上、★2の授業科目から2単位以上、★3の授業科目から4単位以上修得するとともに

★1、★2、★3の授業科目から合計16単位以上修得しなければならない。

□は児童厚生一級指導員必修科目、■は児童厚生一級指導員選択科目

教育課程表の科目以外に資格関連科目として「児童館実習（10日間）」「児童館実習（20日間）」を4年Ⅰ期に開講する。

上記必修科目とは別に「児童館実習（10日間）」（□1）の単位を修得しなければならない。

なお「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」を履修しない場合は「児童館実習（20日間）」（□2）の単位を修得しなければならない。

また、選択科目のうち、■1の授業科目から5単位以上、■2の授業科目から4単位以上修得しなければならない。

欄外の※は、学則第21条第1項第1号の但書に規定する授業科目を表す。

欄外のの※※は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

科目名	生涯学習論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する				

《授業の概要》

本講義では、生涯学習や生涯学習社会について理解することをめざします。とくに学校教育との関係から、生涯学習の特徴を学びます。生涯学習は誰によって、いつ、どこで行われるかは多様です。生涯学習が、人の一生と関わること、人が暮らして行く社会や文化、時代の影響を受けることを理解したうえで、福祉社会における生涯学習とは何か考えます。

《テキスト》

『新しい時代の生涯学習』関口礼子他著(2002, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

適宜、提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 「生涯学習」という考え方について理解する
「生涯学習」とは何か・なぜ必要なのか
- (2) 「生涯学習」と「生涯発達」の関係について理解する
人はどのように「生涯」を通して発達するか
- (3) 「生涯学習」と社会福祉の関係について考えをまとめる
「生涯学習」とライフサイクルの変化について
「生涯学習」と地域社会づくりについて

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。

《成績評価の方法》

第1週~第14週の講義のうち10回以上の出席により成績評価資格を得るものとする。

授業内レポート1-2回および調査発表などを数回実施する。
(文章作成能力および知識の定着度：45点)

学習の総まとめとして第15回に学習達成度を評価する。(知識体系を理解する力、批判的思考力、関心・意欲など：55点)

《備考》

日頃より、ニュースに関心をもち、社会状況とくに福祉社会に関する情報・知識を入手するよう努めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生涯学習とは何か	「生涯学習」導入の背景 教育と学習 生涯学習と社会教育
2	生涯学習と生涯発達	発達段階と発達課題 第1の発達と第2の発達 高齢期の発達課題
3	社会の変化と生涯学習(1)	人口動態の変化 人口の高齢化 高齢者にとっての学習
4	社会の変化と生涯学習(2)	情報化社会と学習 学習支援技術 遠隔教育
5	社会の変化と生涯学習(3)	グローバル化と学習 グローバル化と教育制度 グローバル化時代の学習課題
6	社会の変化と生涯学習(4)	ライフコースの変化 少子化と家族の変化 男女平等教育と家庭教育(学習)
7	生涯学習の方法(1) (演習を含む)	方法論の重要性 アンドラゴジーとペダゴジー 生涯学習の方法
8	生涯学習の場(1)	社会資源の利用 地域社会における学び 図書館と公民館/地域センター
9	生涯学習プログラムの開発 (演習を含む)	地域のニーズ プログラムの対象 企画・広報
10	生涯学習の方法(2) (演習を含む)	学校の開放 学社融合 大学の開放
11	生涯学習の方法(3) (演習を含む)	実践例に学ぶ ボランティア NPO活動
12	生涯学習の場(2)	職業的社会化と発達 職業指導 企業内教育
13	生涯学習の場(3)	教育によらない学習 宗教と儀式(祭り) 芸術と音楽
14	生涯学習と生涯福祉	生涯発達と生涯学習 地域福祉と生涯学習 社会変化と生涯学習
15	学習の総まとめ	・学習目標およびディプロマポリシーの確認 ・学習成果の確認

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- * 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- * 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理 1	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化
4	乳児期の心理 2	幼児の認知 愛着 基本的信頼感/不信得
5	幼児期の心理 1	前概念思考期 象徴機能 3項関係 ことばの獲得 自律性/恥・疑惑
6	幼児期の心理 2	直観的思考期 心の理論 社会性の発達 遊びの発達 主導性/罪悪感
7	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化
8	児童期の心理 2	勤勉性/劣等感 ギャング集団 道徳性の発達
9	児童期の心理 3	向社会的行動の発達 学校ストレス 9歳の壁 心身症
10	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て
11	青年期の心理 2	第2反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顕示
12	青年期の心理 3	自我・一性の確立/自我同一性の拡散 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚
13	成人期の心理 1	大人とは 仕事と家庭 一家を構える 親意識 仕事における自己拡大
14	成人期の心理 2 中年期の心理 1	親密性/孤立 個性化 第2の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
15	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉				
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

現代社会におけるセーフティーネットとしての社会福祉の役割・機能について体系的な制度解説と、高齢者、障害者、子どもの生活問題の構造的理解のための分析を行い、それらの家族が抱えている生活問題解決または緩和のための支援の実践について、視聴覚教材や事例を使って講義する。

《テキスト》

『保育福祉小六法』2013年版、六法編集会編、みらい、2013

《参考図書》

『福祉小六法』福祉小六法編集委員会編 みらい 2013
 『図説日本の社会福祉』真田・宮田・加藤・河合編著、法律文化社、2004

《授業の到達目標》

基本的人権の思想と体系を基本に社会福祉を理解し、社会福祉サービス体系的を理解する。さらに、そのサービス体系において、サービス実施主体の役割・機能と支援の実践を学び、現代家族の抱える生活問題への支援の意義を認識する。

《授業時間外学習》

1 事前学習 次回講義予定の内容に関連するテキストを読む
 2 復習 講義ノートの整理

《成績評価の方法》

期末に筆記試験を実施して評価する。(100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念	現代社会における社会福祉の概要を示し、憲法25条の生存権保障と13条の幸福追求権の意義を理解する。
2	社会福祉発達の歴史	イギリスと日本における社会福祉の発達を解説し、社会的施策の発展を学ぶ。
3	社会福祉の行財政	現代社会福祉のサービス体系とその仕組みを解説する。
4	障害者福祉 (施策の概要)	日本の障害者福祉の歴史と制度の解説し、現在の福祉サービスの役割機能を示す。
5	障害者福祉 (総合支援)	障害者総合支援法の仕組みを解説し、ICFの視点に立つ障害者福祉を理解する。
6	老人福祉	高齢社会の現状とその社会的影響を指摘し、世代間扶養の課題について考える。
7	老人福祉	老後保障の仕組みとその機能を解説し、とりわけ介護問題を中心にそのあり方を検討する。
8	児童福祉	現代社会における児童問題の状況を説明し、家族と子どもが発達する命としての存在を考える。
9	児童福祉	養護問題・非行問題に対応する児童福祉サービスを解説し、サービスの役割・機能の理解と課題を考える。
10	児童福祉	児童虐待問題を取り上げ、その公的施策および民間の取組をとおして問題の解決と防止について考える。
11	生活保護制度	現代の貧困と最後のセーフティーネットとしての生活保護の仕組みと課題について考える。
12	ソーシャルワーク	社会福祉における支援方法の歴史とその理論と実践について解説する。
13	ソーシャルワーク	ペーパークライアント(事例)で支援過程を学び、各自が支援のあり方を考えてみる。
14	地域福祉	市町村の地域福祉計画を中心に地域における福祉課題の取組を解説し、各自が済んでいる地域の福祉について考えてみる。
15	現代福祉サービス体系のあり方	ノーマライゼーションの理解とその理念にもとづく在宅福祉の現状と課題について考察する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	社会福祉				
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

社会福祉サービスの対象者が低所得者から一般国民に拡大する政策の潮流を社会福祉制度を中心に分析する。その視点は、現金給付と現物給付の現状と本質を考察して、それらに要する財源の構造と課題を示す。さらに、「税と社会保障の一体改革」の論議を踏まえ、福祉社会、福祉国家について講義する。

《テキスト》

『国民福祉の動向2012/2013版』（財）厚生統計協会（編），厚生統計協会，2012

《参考図書》

『福祉国家という戦略』宮本太郎著 法律文化社、1999
 『福祉資本主義の三つの世界』G.エスピン・アンデルセン著 岡沢・宮本監訳 ミネルヴァ書房、2001

《授業の到達目標》

社会福祉制度の体系的な理解から福祉政策の分析力を高め、さらに、社会福祉のあり方をおして福祉国家の思想について理解を深める。

《授業時間外学習》

1 事前学習 示された次回講義予定のテーマに関連するテキスト、参考文献を読む。
 2 復習 講義ノート整理をし、理解できている部分と理解不十分な箇所を明らかにし、その不明な点の解消に努める。

《成績評価の方法》

期末に課題についてレポート（約10000字程度）を提出し、それを評価する。（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉政策の領域	社会福祉制度の体系を解説する。
2	現代福祉政策分析の枠組み	福祉サービス対象者、給付の本質および給付額とサービスの種類、福祉の財政と行政を解説する。
3	戦後日本の社会福祉政策の歩み（1）	生活保護法の制定から児童手当・老人医療費無料化までの期間を福祉制度の確立期から充実期として解説する。
4	戦後日本の社会福祉政策の歩み（2）	経済低成長期下の福祉の調整期からゴールドプランの転換期を解説する
5	再構築期の社会福祉政策	社会保障制度審議会「社会保障体制の再構築」（1995）から現在までの社会福祉の構造改革の意味を解説する。
6	社会福祉サービスの供給のあり方	社会福祉サービスが「措置制度」から「契約」に転換し、利用者の選択権について解説する。
7	社会手当、生活保護の扶助等の現金給付のあり方	生活扶助（生活保護）や各種福祉手当等の現金給付の現状と課題について解説する。
8	市場化と経営主体の多様化	非営利法人の社会福祉法人以外の営利法人が福祉の領域に参入した現状とその意味について解説する。
9	社会福祉サービスの財源	国、地方自治体、利用者負担の構造を明らかにする。
10	社会福祉行政の仕組み	厚生労働省、都道府県、市町村および福祉行政機関のそれぞれの役割と機能を解説する。
11	施設サービスと在宅サービス及び地域福祉	施設サービスから地域で生活するための福祉サービスへの政策変化を解説し、その課題を示す。
12	社会福祉人材の確保と養成	福祉サービスに従事する人材難の現状とその確保と養成の課題を示す。
13	現代福祉国家と福祉サービス	普遍化する社会福祉サービスの現状をおして福祉国家戦略を考察する。
14	北欧型モデルとアメリカ型モデルの比較	高福祉高負担を前提に充実した福祉サービスをもつスウェーデンなどのモデルと自己責任型を重視する「小さな政府を」基本とするアメリカのモデルを比較する。
15	これからの日本における福祉政策の課題	少子高齢社会の進展と日本経済の先行き不透明の課題を分析して、これからの福祉政策を考察する。

《専門教育科目 社会福祉基盤科目》

科目名	児童家庭福祉				
担当者氏名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷，児童家庭福祉と保育，児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し，児童家庭福祉の現状を把握し，その課題について考察する。

《テキスト》

『保育福祉小六法』2013年版，六法編集委員会編，みらい，2013

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解し，主体的に考えることができる。
 児童家庭福祉の歴史の変遷，制度や実施体系等について学び，保育実習に生かすことができる。
 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解し，保育実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

子どもの生活にかかわる情報を入手し，授業に反映させられるようにしましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験（100％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童家庭福祉の意義	児童家庭福祉を学ぶ意義，授業内容，授業の進め方，評価。
2	子どもの権利とその歴史の変遷	子どもの権利と人権，子どもの権利に関する重要な宣言，現代の子どもを守る条約と法律。
3	保育に必要な児童家庭福祉の考え方	保育を理解するための児童家庭福祉，子どもの人権擁護と保育。
4	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状 1	児童家庭福祉の法律と制度（児童福祉法・児童に関する法律その他）。
5	児童家庭福祉に関する制度と実践体系の現状 2	児童家庭福祉行財政とその実施機関。
6	児童福祉施設と援助者	子どもの生活を保障する児童福祉施設，児童家庭福祉を支える専門職とその実践者
7	少子社会と子どもの発達保障	少子化と子育て支援の現状，母子保健と子どもの発達保障。
8	子どもの健全育成	児童健全育成と児童館，放課後児童健全育成事業等，多様な保育ニーズと子育て支援。
9	子育てと社会的養護 1	現代家庭の抱える子育て問題，子育て家庭と子ども虐待，ドメスティックバイオレンスと現代家庭。
10	子育てと社会的養護 2	様々な課題を抱える子どもの特性，障害のある子どもの生活。
11	子育てと社会的養護 3	少年非行に陥る子どもへの社会的支援（視聴覚教材の使用）。
12	子育てと社会的養護 4	ひとり親家庭の子どもが抱える課題と支援。
13	児童家庭福祉の動向	次世代育成支援と児童家庭福祉の課題と展望，保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワークの充実。
14	諸外国の子育て事情	諸外国の子育て支援の動向，スウェーデンの保育所と就学前児童の保育内容（視聴覚教材の使用）。
15	まとめ	保育士の役割と児童家庭福祉，授業内容と「保育実習」との関わり。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習 I				
担当者氏名	和山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 恵美子、中島 龍一、松田 信樹、 澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との良好な人間関係を構築するとともに、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《授業の到達目標》

- ①こども福祉学科に入学した学友と、刺激を与え合うことのできる良好な人間関係を構築すること
- ②大学での学び方を体得すること
- ③こども福祉学科での学びの特徴を理解する

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

『知のツールボックス—新入生援助(フレッシュマンおたすけ集)』 専修大学出版局(編) 2009
 『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』 佐藤望・横山千晶・湯川武・近藤明彦(著) 慶應義塾大学出版会 2006

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
- ・提出された課題に対する評価 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	自己紹介を通じて自分のことを仲間にも知ってもらい、ネームカードを作成する
2	人間関係の構築	インタビューを通してゼミの仲間と教員のことを知る
3	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成(1)
4	チームを組んで課題にあたる	キャンパス・ツアーそしてキャンパス・マップの作成(2)
5	大学での講義の受け方	講義を聞きつつノートをとるといった技を身につける
6	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動(1)
7	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての造形活動(2)
8	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる(1)
9	大学での学び方	資料を読んで理解した内容をまとめる(2)
10	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての身体表現を学ぶ
11	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての手遊びで遊んでみる
12	こども福祉学科での学びに向けて	幼児教育の基礎的スキルとしての音楽について学ぶ
13	大学での学び方	幼稚園の現場に足を運んで調べ、理解した内容をまとめる
14	こども福祉学科での学びに向けて	ブラインド・ウォークを体験することによって、全身の感覚を研ぎ澄まして自然を感じる
15	I期の学びのふりかえり	I期の学びをふりかえりつつ、まとめをする

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	初年次演習Ⅱ				
担当者氏名	和山 貴要江、田中 正彦、安井 重雄、田中 博一、斎藤 正寿、藤井 恵美子、中島 龍一、松田 信樹、澤田 真弓、満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

初年次演習Ⅰに引き続き、こども福祉学科での4年間の学びへの円滑な導入を目指して授業を展開する。志を同じくする学友そして教員との人間関係をさらに深めながら、大学での学び方そしてこども福祉学科での学びの特徴を理解し専門教育への導入とする。

《授業の到達目標》

- ①こども福祉学科に入学した学友との関わりを深め、切磋琢磨しあえる人間関係を構築すること
- ②大学での学び方を体得すること
- ③こども福祉学科での学びの特徴を理解すること
- ④卒業後の進路を見据え、学びに対する意欲を高めること

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

『知のツールボックス—新入生援助(フレッシュマンおたすけ集)』 専修大学出版局(編) 2009
 『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』 佐藤望・横山千晶・湯川武・近藤明彦(著) 慶應義塾大学出版会 2006

《授業時間外学習》

授業時に出された課題等に積極的に取り組み、指示された通りに提出するよう努めること。

《成績評価の方法》

- ・ 授業に対して積極的に参加しようとする態度と意欲 50%
- ・ 提出された課題に対する評価 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	Ⅱ期の演習内容の解説
2	保育者となる自分自身を理解する	自分自身の他者との関わり方の特徴を知る
3	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ(1)
4	大学での学び方	レポートの作成方法を学ぶ(2)
5	大学での学び方	プレゼンテーションの準備をする(1)
6	大学での学び方	プレゼンテーションの準備をする(2)
7	大学での学び方	プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(1)
8	大学での学び方	プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する(2)
9	こども福祉学科での学びに向けて	幼稚園の現場に足を運び、理解した内容をまとめる
10	こども福祉学科での学びに向けて	レクリエーション活動を通して、幼児教育の基礎的スキルを身につける
11	キャリアについて考える	取得できる免許・資格を確認する(免許・資格を使って社会にどのように参加するかについて認識を深める)
12	キャリアについて考える	人生のコース図(過去・現在・未来)を作成し、人生の中にキャリアを位置づける
13	キャリアについて考える	コミュニケーション作法:手紙の書き方について学ぶ
14	キャリアについて考える	コミュニケーション作法:話し方について学ぶ
15	Ⅱ期の学びのふりかえり	理想とする保育者イメージを鮮明にし、これから何を学ぶべきかを再認識する

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	人間福祉論				
担当者氏名	田中 博一				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

基本的人権の歴史と体系を解説し、基本的人権思想が社会福祉の基盤であることを示す。さらに、「自立・自律」、「主体的に生きる」をソーシャルワーク、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉の領域でどのように考えるかを実践や「文学作品」をとうして講義する。

《授業の到達目標》

社会福祉の領域において人間の尊厳を考察し、「個の確立」の意義について理解を深める。

《成績評価の方法》

期末に試験を実施し、それを評価する。(100%)

《テキスト》

『人間福祉の思想と実践』住谷・田中・山辺編著 ミネルヴァ書房 2003

《参考図書》

『ICFの理解と活用』上田 敏著 きょうされん 2005
 『障害者福祉の世界』佐藤・小澤著 有斐閣 2000
 『ノーマライゼーションの原理』 ニイリエ著 現代書館 1998
 『エミール』ルソー著 岩波書店 1964

《授業時間外学習》

1 事前学習 シラバス予定の内容に関するテキストを読み、各自の関心事項に結びつけて思考する。
 2 復習 授業ノートの整理と関連の文学、哲学、宗教関連の文献を読む。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人間福祉の思想	憲法25条(生存権保障)、憲法13条(個人の尊重、幸福追求権)と社会福祉サービス体系の関係を解説し、社会福祉サービス利用者の個の確立の必要性を示す。
2	人間福祉の思想の源流	自由権と社会権の歴史的発展過程を解説し、基本的人権の体系を解説する。
3	人間福祉の源流(1)	石井十次の思想と実践を解説する。
4	人間福祉の源流(2)	留岡幸助の思想と実践を解説する。
5	人間福祉の体系	人間の尊厳について考察する。社会福祉を基本的人権思想を基盤に福祉サービス利用者の自立・自律について考察する。
6	ソーシャルワークと人間福祉	ジェネラリスト・ソーシャルワークを基盤にクライアントの「主体性」とソーシャルワークを考察する。
7	ケアワークと人間福祉	WHOのICF理念を解説し、自立支援の視点からケアワークを解説する。
8	高齢者福祉と人間福祉	高齢者の生活構造を理解し、介護保険の自立支援について解説する。
9	文学にみる高齢者介護	正岡子規『病牀六尺』、有吉佐和子『恍惚の人』ポーヴォワール『古い』、フリーダン『古いの泉』を解説し、介護する側される側の主観について論ずる。
10	児童福祉と人間福祉	現代の児童問題を理解し、ルソーの『エミール』の現代的意味について考察する。
11	障害者福祉と人間福祉	国際障害者年の「完全参加と平等」を中心に、日本の福祉のあり方の変化について解説する。
12	障害者福祉と人間福祉	生活機能と障害の構造的理解を深め、障害者の「主体的」な生き方について考察する。
13	社会福祉における個人の尊重	社会福祉における選択権と自己決定について考察する。
14	ノーマライゼーションの原理と社会福祉サービス	社会福祉における「ノーマルな生活」の意義とサービスのあり方を考察する。
15	社会福祉の新潮流と人間福祉	福祉の構造改革後の社会福祉の「人間化」を考察する。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理				
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

保育という営みを制度や歴史の変遷、内容と方法、子どもの発達過程などの主要な観点から考察し、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す

《テキスト》

『保育原理』森上史朗・小林紀子・若月浩編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

保育の意義と特質について理解できる 子どもの発達と
 保育者の役割について理解できる 保育を取り巻く現状と
 課題について主体的に考えることができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 定期試験70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育の意義と目標
2	保育の基盤としての子ども観	様々な子どもの捉え方 保育者として備えておきたい子ども観
3	保育の歴史の変遷	西洋の保育
4	保育の歴史の変遷	日本の保育
5	幼稚園・保育所の意義と役割	幼稚園の意義と役割
6	幼稚園・保育所の意義と役割	保育所の意義と役割
7	保育の内容と方法	養護的側面と教育的側面を併せ持つ保育の特質
8	保育の内容と方法	子どもの生活と5領域の関係
9	子どもの発達と保育	環境を通して行う教育とは
10	子どもの発達と保育	遊びを中心とした総合的な指導とは
11	保育の計画と評価	保育・教育課程と指導計画
12	保育の計画と評価	評価の観点と方法
13	多様な保育ニーズと子育て支援	多様化する保育ニーズと子育て支援の現状を理解する
14	保育の現代的課題	現行の保育を取り巻く様々な課題について考察する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	保育原理				
担当者氏名	澤田 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

保育原理 の学習内容をさらに発展させ、個別の事例研究などを取り入れながら保育者として必要な知識を深める。また、家庭や他機関との連携協力にも着目し、保育者としての幅広い視野の獲得を目指す。

《テキスト》

『保育原理』森上史朗・小林紀子・若月浩編、ミネルヴァ書房
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館

《参考図書》

必要に応じて随時紹介する。

《授業の到達目標》

保育の内容や方法に関する基礎知識をさらに深める 保育者としての幅広い視野を獲得する 保育施設の現状を理解し、それぞれが抱える課題に対して主体的な意見を述べる事ができる

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ資料等を配布された場合は熟読しておくこと
 復習：授業内容を丹念に振り返るとともに、各回のテーマに関して自分なりの考えを持てるよう努めること

《成績評価の方法》

授業への参加態度および提出物30% 定期試験70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育とは（保育原理 の学習内容を踏まえて）
2	子ども理解と保育の方法	日本における保育の始まりと恩物教育
3	子ども理解と保育の方法	新教育運動と児童中心主義
4	子ども理解と保育の方法	新教育運動と児童中心主義
5	保育における遊び	遊びの意義
6	保育における遊び	子どもの発達と遊び（事例研究）
7	保育の計画と評価	課程編成の原理と方法
8	保育の計画と評価	指導計画作成の原理と方法
9	保育の計画と評価	評価と省察の原理と方法
10	家庭および他機関との連携	子どもを取り巻く多様な人々との連携協力
11	連続性を踏まえた保育	保育における連続性とは
12	連続性を踏まえた保育	事例研究
13	幼稚園の現状と課題	幼稚園が抱える今後の課題について検討する
14	保育所の現状と課題	保育所が抱える今後の課題について検討する
15	まとめ	授業全体のまとめ

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む				

《授業の概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ポルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、幼児教育を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《テキスト》

広岡 義之著、『ポルノー教育学入門』、風間書房、2012年

《参考図書》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や幼児教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにする。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講すべきかを理解する。
2	教育の目的と目標 1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標 2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	幼児教育の重要性について	家という保育室の必要性について、庇護性という概念で幼児教育の重要性について考察する。
7	伝統的教育の歴史と思想内容について	ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトの教育観を思想的に比較しつつ、考察する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてポルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。

《専門教育科目 こども福祉基盤科目》

科目名	こどもの心理学				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる				

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のおまじぎについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》

保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。発達障がいについて正しく理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『シードブック 保育の心理学』 本郷一夫（編） 建帛社 2011 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長を見つめる心理学への導入	心理学とはどのような学問か、そして「こどもの心理学」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期の母子関係について学ぶ。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期の発達に関して、言語と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達～その1	幼児期の発達に関して、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期の発達～その2	幼児期の知的発達について学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達に関して、仲間関係、児童-教師との関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達に関して、学習に対するやる気に焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、特に親としての成長をテーマに学ぶ。
14	発達のおまじぎ～その1	発達障がいについて、障がいの捉え方について学ぶ。
15	発達のおまじぎ～その2	広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害等について詳しく学ぶ。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと環境				
担当者氏名	三宅 茂夫				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもち関わり、それらを生活や遊びに取り入れようとする力を養うことが目標である。そのなかで多様な感覚や概念等も形成される。本授業では、幼児教育の基本的視点「環境を通して行う教育」から、領域「環境」のねらいを捉え、子どもにとって必要な環境のあり方、保育構成や展開に必要な知識や技能について学ぶ。前半は講義形式で、後半は模擬保育等を実施する。

《授業の到達目標》

幼稚園教育における領域概念を理解し、領域「環境」の目標やねらいを理解し、それらを生活の中で培い、育てていくための保育実践に必要な基礎的な知識や基本的な技能の修得を目指す。

《成績評価の方法》

模擬保育（50％）、レポート（25％）、平常点（25％）などを総合して行う。

《テキスト》

- ・三宅茂夫・大森雅人・爾寛明編著 / MINERVA保育実践学講座9 「保育内容『環境』論」 / ミネルヴァ書房 / 2010
- ・文部科学省 / 「幼稚園教育要領解説」 / フレーベル館 / 2008

《参考図書》

必要に応じて、文献の紹介や資料の配布を行う。

《授業時間外学習》

今回の授業の予習や模擬保育等の準備を入念にしておくこと。日常的に授業に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学びを進めておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・幼稚園教育の基本と領域	本授業の目的や目標、内容、計画等についての理解。幼稚園教育の基本や重視する事項、領域概念などについて理解する。
2	領域「環境」のねらいと内容	領域「環境」に示されるねらいと内容に関する理解を深め、子どもが環境とのかかわりを通して身につけていく力を把握する。
3	領域「環境」における指導上の留意点	領域「環境」に示されるねらいと内容をふまえ、それらを指導する上での留意点を理解し、保育を実施する見通しをもつ。
4	模擬保育の実際と学び方・模擬保育の準備	模擬保育の実施方法や反省会の仕方等を学び、グループやテーマの選択など次回以降の模擬保育実施の準備を行う。
5	模擬保育の説明と実践	模擬保育の指導案の事前説明と実施。
6	模擬保育の反省と次回指導案の検討	模擬保育の反省と次回実施の模擬保育の指導案検討。
7	模擬保育の説明と実践	模擬保育の指導案の事前説明と実施。
8	模擬保育の反省と次回指導案の検討	模擬保育の反省と次回実施の模擬保育の指導案検討。
9	模擬保育の説明と実践	模擬保育の指導案の事前説明と実施。
10	模擬保育の反省と次回指導案の検討	模擬保育の反省と次回実施の模擬保育の指導案検討。
11	模擬保育の説明と実践	模擬保育の指導案の事前説明と実施。
12	模擬保育の反省と次回指導案の検討	模擬保育の反省と次回実施の模擬保育の指導案検討。
13	模擬保育の説明と実践	模擬保育の指導案の事前説明と実施。
14	模擬保育の反省	模擬保育の反省。
15	まとめ	学習のまとめ

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと言葉				
担当者氏名	徳永 満理				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む				

《授業の概要》

言葉の機能と乳幼児のこことば獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常生活の中で、人との関わりを通して言葉を獲得していく。又、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その理論と指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『ことばと保育』近藤幹生他著（ひとなる書房）
 『保育所保育指針解説書』
 『幼稚園教育要領解説書』

《参考図書》

『絵本で育つ子どものこことば』徳永満理著（アリス館）
 適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》

言葉の機能を理解し、乳幼児のこことば獲得のプロセスと指導方法を習得する。言葉が人間性を最もよく現すことを理解し、保育者としてふさわしい言葉感覚を持つことを理解する。言葉を育てる文化財を理解し、その実践力を培う。創作絵本製作を通してこことばの大切さを知る。

《授業時間外学習》

- ・創作絵本の作成
- ・絵本の選書と事前練習
- ・演劇や映画などを観賞する機会を多く持ち、感性を磨く
- ・子どものところにいかけていき、読み聞かせなどをさせてもらい、技術を磨く

《成績評価の方法》

筆記試験（教科書・資料、持ち込み可とする） 60%
 創作絵本 20%
 レポート提出・授業内発表 15%
 授業中の態度 5%

《備考》

- ・正当な理由のない欠席、遅刻は厳禁
- ・授業中の飲食・携帯電話・私語厳禁
- ・提出物の期限は厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 言葉のねらいと内容	・講義の概要・履修上の注意・授業の進め方 ・絵本の読み聞かせの意義・選書・読み方
2	言葉の機能を考える	人間にとっての「こことばとは」
3	保育内容としての「こことば」の歴史	保育内容「こことば」の移り変わり 幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して
4	「こことば」の育つみちすじ	こことばを話す前に～0歳児のこことば～
5	「こことば」の育つみちすじ	こことばを話せようになってから～1・2歳児のこことば～
6	「こことば」の育つみちすじ	3歳児のこことば
7	「こことば」の育つみちすじ	4歳児のこことば
8	「こことば」の育つみちすじ	5歳児のこことば
9	「こことば」を育むための保育者の関わり・役割	・話し合い場面での保育者の役割 ・けんか・トラブル場面での保育者の役割 ・保育園・幼稚園におけるこことばをめぐる問題
10	「こことば」を育てるあそび	児童文化財とは
11	「こことば」を育てるあそび	児童文化財との関わり 絵本
12	「こことば」を育てるあそび	児童文化財との関わり 紙芝居
13	指導計画と「こことば」	・乳児保育の指導計画 ・幼児の指導計画
14	家庭との連携と「こことば」	・保育を伝える手段としての「クラスだより」 ・園と家庭をつなぐための連絡帳
15	「こことば」を聞く意味、記録する意味	・幼児のこことばを記録する取り組み・こことばへの自分なりの視点をもつこと・こことばを記録するには・子どものこことばの世界を広くとらえること

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと身体表現				
担当者氏名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《テキスト》

『表現』 幼児音楽 小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》

『手あそび指あそび』 吉本澄子著（玉川大学出版部） 『ドラマによる表現教育』 ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《授業の到達目標》

- ・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
- ・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《備考》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズムカルに動くことを確認する

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと音楽				
担当者氏名	中島 龍一、小杉 裕一、津田 安紀子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

こども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、現場における応用力を身につけるための基礎技能を学びます。ピアノ初学者から経験者に至るまで個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンとを適宜織り交ぜながら進めていき、様々な形態での伴奏能力を身に付けます。また、連弾を通してアンサンブルの大切さも学びます。

《授業の到達目標》

楽譜に書かれてあることを理解し、幼児教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。

コードネームおよびメロディーと伴奏による演奏ができる。
歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》

『うたのメルヘン』『びあのってすばらしい』
『れんだん ワン! ツー!! スリー!!!』 『Cookin' Music』
(共同音楽出版社)

《参考図書》

『おんがく玉手箱』『すいかとかぼちゃのロックンロール』
『ピアノソロドラゴンシリーズ』『名曲メドレー集』
(共同音楽出版社)
その他資料等は、必要に応じて指示・配布します。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、毎日の練習の積み重ねです。反復練習を十分にして、レパートリーを広げていきましょう。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
室内での飲食厳禁。
爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	期授業内容の説明およびレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードネームと音階の理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(C, F, Gコード)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(セブンスコード)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(シャープ系のコード)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(フラット系のコード)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(マイナーコード)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ディミニッシュコード)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(オーギュメントコード)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(ナインスコード)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(コードの変換)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(アルペジオ)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(終止形について)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	期の総まとめ。 期に向けての説明と指導。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと音楽				
担当者氏名	中島 龍一、小杉 裕一、津田 安紀子、中條 裕子、西本 由香、前北 恵美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

こども教育者として望ましい姿勢を保ちつつ、期の内容を更に発展させる形で学びます。受講生個人の進捗状況に応じて、現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付けます。こどもの歌の弾きたいは勿論、連弾やピアノ楽曲、マーチ・ワルツ・かけっこ・スキップ・ギャロップといった身体表現と関わりの深い曲等も弾けるようにします。

《授業の到達目標》

楽譜に書かれてあることを理解し、幼児教育に必要なピアノ演奏技術を身に付けることができる。

コードネームおよびメロディーと伴奏による演奏ができる。
歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
現場で使用されている曲や、テキスト以外の様々な楽曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》

実技点(60%)、授業点(40%)の総合評価。

《テキスト》

『うたのメルヘン』『びあのってすばらしい』
『れんだん ワン! ツー!! スリー!!!』『Cookin' Music』
(共同音楽出版社)

《参考図書》

『おんがく玉手箱』『すいかとかぼちゃのロックンロール』
『ピアノソロドラゴンシリーズ』『名曲メドレー集』
(共同音楽出版社)
その他資料等は、必要に応じて指示・配布します。

《授業時間外学習》

ピアノ学習で一番大切なことは、毎日の練習の積み重ねです。反復練習を十分に、レパートリーを広げていきましょう。

《備考》

講義室の使用上の注意事項を厳守すること。
室内での飲食厳禁。
爪は短く切っておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション ピアノ個人レッスン(1)	期授業内容の説明およびレッスン担当教員の紹介。 学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形についての理解)
2	ピアノ個人レッスン(2)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーの運指法について)
3	ピアノ個人レッスン(3)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(伴奏形の運指法について)
4	ピアノ個人レッスン(4)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子の伴奏形)
5	ピアノ個人レッスン(5)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(3拍子の伴奏形)
6	ピアノ個人レッスン(6)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(4拍子と2拍子の違いについて)
7	中間発表会	演奏会形式による個人発表。
8	ピアノ個人レッスン(7)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(連符について)
9	ピアノ個人レッスン(8)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーへの和音付け)
10	ピアノ個人レッスン(9)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(メロディーと伴奏のバランス)
11	ピアノ個人レッスン(10)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(装飾音符の扱い方と演奏法)
12	ピアノ個人レッスン(11)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(調性について)
13	ピアノ個人レッスン(12)	学生個人のピアノ演奏能力を考慮したレッスン。(移調奏法)
14	研究発表会	演奏会形式による個人発表。
15	総まとめ	期の総まとめ。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと造形				
担当者氏名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 こどもの発達過程について正しく理解する 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

保育現場での造形遊びで生かせる基礎（描写、色彩）や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現する。材料や道具に十分に馴染むことで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ絵や工作に表したくなる。言葉でいいあわせない気持ちを存分に出すことができる。まずは、小さな思いをコンセプトに作品を制作する。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。

《授業の到達目標》

鉛筆を使いこなす自由で表現できるようになる。
色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。授業は11回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション/鉛筆基礎	材料、道具の説明。鉛筆の持ち方
2	鉛筆基礎	線の練習、消しゴム
3	鉛筆基礎	立体感、マチエール、線画
4	鉛筆基礎	グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線
5	鉛筆デッサン	果物や野菜を精密に鉛筆デッサンする
6	色と形を楽しもう	エリックカール技法、エンパリーおじさん技法
7	色と形を楽しもう	3原色でリアルな野菜を描こう
8	色と形を楽しもう	子供の物語性を引き出す想像の世界
9	スタンプ遊び	指紋スタンプで描いてみよう
10	スタンプ遊び	紙版画技法を学ぼう
11	きってやぶいてよーくみて	いちごがいっぱい！何に見えるかな！絵本作り
12	きってやぶいてよーくみて	巨大クッキング～焼そば
13	重ねてコラージュ	水きりえ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
14	重ねてコラージュ	紙ビーズのアクセサリー
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

「お絵描きあそび」アトリエ・リュミエール/鈴木あきこ

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答える。

《備考》

遅刻について/授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとする。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと造形				
担当者氏名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためののスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

造形遊びをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれている。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供はこれらの事を遊びを通して行う。このような活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができる。園で開催される行事や展示立体作品を中心に、イベント企画を提案する。

《授業の到達目標》

オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
ダンボール、布、缶で壁面や展示品を作る（組み換える、生かす）

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。授業は11回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配布する。

《参考図書》

イタリア/レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉（学研）

《授業時間外学習》

予習の方法/毎回使用する素材や材料について研究、収集する。復習の方法/授業内容を再確認し、疑問点がある場合随時答える。

《備考》

遅刻について/授業のはじめに出席をとります。その後時間毎の資料に基づき説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	材料、道具の説明
2	造形遊び	紙の引き出し制作
3	造形遊び	模写作品
4	造形遊び	粘土でミニチュアクッキング。food作り
5	造形遊び	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、時間があればストラップ制作
6	造形遊び	ガチャポンの風鈴
7	造形遊び	立体ワンコ。型紙切断、組み立て
8	造形遊び	立体ワンコ。組み立て、張子作業
9	造形遊び	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作
10	造形遊び	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り
11	造形遊び	立体ワンコ。本塗り
12	造形遊び	カンカン宝箱
13	造形遊び	お昼ねテント&ふりふりフラッグ
14	造形遊び	全作品完成チェック後、学内にてピクニックを開催
15	まとめ	オリジナルの授業計画を作成する

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと運動				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、各年齢に応じた運動指導の在り方を考える。また、これを各種現場において実践するための基礎能力の習得を目指します。

《授業の到達目標》

幼児期の特徴を踏まえ、発育発達に応じた運動指導の在り方について学びます。

《成績評価の方法》

・ 数回のレポート評価（50％）と期末テスト（50％）で評価します。

《テキスト》

特に指定しません。資料を適宜配布します。

《参考図書》

『公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト』（財日本体育協会）、『からだの発達』高石昌弘ら著（大修館書店）、『体力を高める運動75』神家一成著（東洋館出版社）、『マイネルスポーツ運動学』金子明友訳（大修館書店）

《授業時間外学習》

事前に資料等をシラバスを参考に読んでおく事。実際に運動など動きを取り入れたりしますので、常に体を動かす習慣を付けておく事。

《備考》

加点主義で授業を展開しますので、積極的に学ぶ姿勢を持って望んで下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価に関する説明を中心に行います。受講希望者は必ず参加して下さい。
2	子どもたちを取り巻く問題と背景	子どもたちを取り巻く問題と背景について理解します。
3	ジュニア期の発育・発達の特徴	ジュニア期の発育・発達の特徴について生理学等を含めて理解します。
4	ジュニア期の運動発達とスポーツ	ジュニア期の運動発達とスポーツについてトピックスを交えながら理解します。
5	ジュニア期のスポーツ指導の問題点	ジュニア期のスポーツ指導の問題点について発育・発達の面から理解します。
6	ジュニア期のスポーツ指導の留意点	ジュニア期のスポーツ指導の留意点 について前週の内容を踏まえて理解します。
7	子どもの発達とコミュニケーション	子どもの発達とコミュニケーションについてその概要を理解します。
8	子どもの発達とコミュニケーション：傾聴	子どもの発達とコミュニケーションについて傾聴を通じてその方法等を理解します。
9	動きの発達とスキルの獲得	動きの発達とスキルの獲得 について、最近の問題点を中心に概要を理解します。
10	動きの発達とスキルの獲得	動きの発達とスキルの獲得 について、運動内容全般を通してそのプロセス等を理解します。
11	動きの発達とスキルの獲得	動きの発達とスキルの獲得について、適時性の重要性等を理解します。
12	動きの発達とスキルの獲得	動きの発達とスキルの獲得について、適時性と指導法の両面から概要を理解します。
13	動きの発達とスキルの獲得	動きの発達とスキルの獲得について、各種スポーツ競技団体の取り組みを例に学びます。
14	動きの発達とスキルの獲得	動きの発達とスキルの獲得について、日本体育協会や文部科学省の取り組みを例に学びます。
15	まとめ	これまでまとめを行い知識の確認を行います。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こどもと運動				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

発育発達の特徴を踏まえ、適時性を考慮した運動指導の在り方を学びます。特にコーディネーション能力に着目し、その指導法を中心に効果的な指導法を学びます。

《テキスト》

特に指定しません。資料を授業中に適宜配布します。

《授業の到達目標》

幼児期の特徴を踏まえ、発育発達に応じた運動指導の在り方を学び、その実践力を身につける事を目標とします。

《参考図書》

『公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト』（財日本体育協会）、『からだの発達』高石昌弘ら著（大修館書店）、『体力を高める運動75』神家一成著（東洋館出版社）、『マイネルスポーツ運動学』金子明友訳（大修館書店）

《授業時間外学習》

シラバスを参考に事前に該当する内容の参考資料等を読んでおく事を求めます。実際に運動を行い、デモンストレーションが出来るようにして下さい。

《成績評価の方法》

・ 数回のレポート評価（50％）と期末テスト（50％）で評価します。

《備考》

加点主義で展開しますので、積極的に授業に参加する事を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講希望者は必ず参加する事。
2	幼児期の発育発達	幼児期の発育発達についてその概要を学びます。
3	コーディネーション能力について	コーディネーション能力について、その概要と必要性等を学びます。
4	コーディネーション能力の開発について	コーディネーション能力の開発について、前週の概要と合わせてその方法を学びます。
5	コーディネーション能力とスポーツについて	コーディネーション能力とスポーツについて、その関連性と適時性等について概要を学びます。
6	スポーツスキルの獲得と実際	スポーツスキルの獲得と実際について、その概要を学びます。
7	スポーツスキルの獲得と実際	スポーツスキルの獲得と実際について、一般的発育過程を中心にその関連性等を学びます。
8	スポーツスキルの獲得と実際	スポーツスキルの獲得と実際について、各種運動との組み合わせとその影響について学びます。
9	スポーツスキルの獲得と実際	スポーツスキルの獲得と実際について、小学校低学年を例に運動発達を学びます。
10	幼児期の実際の運動・あそび・ゲーム	幼児期の実際の運動をあそびやゲームを中心に概要および方法論を学びます。
11	児童期の実際の運動・あそび・ゲーム	児童期の実際の運動をあそびやゲームを中心に概要および方法論等を学びます。
12	各種競技団体における幼児期・児童期の運動	各種スポーツ競技団体の取り組みを例に幼児期・児童期の運動プログラムを学びます。
13	各種競技団体における幼児期・児童期の運動	各種スポーツ競技団体における幼児期・児童期の運動の取り組みや文部科学省の指導案を例にその方法論を学びます。
14	メニュー作成と実施	これまでの学習を参考にメニューの作成と実施 にチャレンジします。
15	まとめ	全体のまとめと前週に引き続きこれまでの学習を参考にメニューの作成と実施 にチャレンジします。

《専門教育科目 専門科目 群》

科目名	こども文化論				
担当者氏名	高橋 司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する				

《授業の概要》

こども文化の精神と技術の習得のために様々な文化財を提示する。

こども文化とは何かを理解し、様々なこども文化財の創作を通してこども文化の心に触れ、幼児教育者としての感性と創造性を養う。

《テキスト》

『児童文化と保育 こころ豊かな文化を育むために』高橋司 編著 宮帯出版社

《参考図書》

未定

《授業の到達目標》

こども文化がこどもの個性を伸ばし新しい時代に的確に対応した自己確立を促すものであることを理解することができる。

こども文化の心を練磨し、こどもの価値志向を伸ばす素材について考えることができる。

こどもが文化を享受し、創造して遊ぶことの実際を、各実習において検証することができる。

《授業時間外学習》

日頃から、絵本、紙芝居、人形劇など、こどもの情操を育む素材に触れるようにしましょう

《成績評価の方法》

定期試験（60％）、小レポート（20％）、受講態度等（20％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明、本授業と幼稚園教諭・保育士資格との関連、幼稚園等における本授業内容の展開
2	こども文化とは何か	こども文化の定義、領域、本質
3	こども文化における「こども」	法律におけるこども、心理学におけるこども
4	こども文化とこども観	古代から近世まで
5	こども文化とこども観	近代から現代まで
6	こども文化とこども観	こども観の変遷についてのまとめ
7	こどもの発達とこども文化	おもちゃの歴史、発達に応じたおもちゃ、年齢に見合った玩具
8	こども文化の本質	おもちゃの機能と効用
9	こどもの情操を育む文化財	童話
10	こどもの情操を育む文化財	紙芝居
11	こどもの情操を育む文化財	ペープサート
12	こどもの情操を育む文化財	絵本・人形劇
13	こどもの情操を育む文化財	パネルシアター
14	こどもの情操を育む文化財	エプロンシアター
15	こどもの情操を育む文化財	音楽